

吃音「寄り添う姿勢大切」

松川中央小職員向け研修

松川町の松川中央小学校は、言葉が出にくかったりつかえたりする「吃音^{きつおん}」についての職員向け研修をした。松本市にある神応透析クリニックの言語聴覚士内藤麻子さん(52)が講師を務め、「解決しようとするのではなく、寄り添う姿勢が大切」と話した。

吃音への理解を深める目的で校内外の職員ら約40人が参加。内藤さんは、吃音の発症で「自分が嫌いになった」と打ち明けた子どもの思いを紹

介し、クラスメートにからかわれるなどの経験から恐怖心を抱き「吃音を出すまいとすればするほど悪化する」と説明した。自信をなくし「話すことをあきらめてしまう子どもも少なくない」とした。「待つことは認めること」

とし、子どもが言葉に詰まった時はすぐに代弁するのではなく、言葉が出るのを待つことが大事」とも強調。周囲が吃音について知り、普通のこととして接することや、専門家への相談を勧めるといった対応も必要とした。

小平知行校長は「吃音の子どもと出会った時に正しい理解に基づき対応をしていくための機会になった」と話した。



吃音について講演する
内藤さん